

特許庁から発行されている特許文献には、「公開特許公報」と「特許公報」の2種類があります。

特許庁に特許出願をすると、その内容が公序良俗に反しない限りどんなものであっても1年半経てば「公開特許公報」として公開されます。

公開特許公報は特許庁のHPへの掲載や冊子体で発行され、誰でも閲覧できるようになります。しかし公開特許公報には出願した内容がそのまま掲載されているだけで、権利として認められたわけではありません。

特許庁での審査を経て権利化された発明は、「特許公報」に記載されます。

JP 2005-253342 A 2005.9.22		
(19) 日本国特許庁(JP)	(12) 公開特許公報(A)	(11) 特許出願公開番号 特開2005-253342 (P2005-253342A)
		(43) 公開日 平成17年9月22日(2005.9.22)
(51) Int. Cl. <sup>7</sup> C12N 15/09 A61K 31/7105 A61K 31/711 A61K 35/76 A61K 48/00	F I C12N 15/00 ZNAA A61K 31/7105 A61K 31/711 A61K 35/76 A61K 48/00	テーマコード(参考) 4B024 4B065 4C084 4C086 4C087
審査請求 未請求 請求項の数 14 O L (全 11 頁) 最終頁に続く		
(21) 出願番号 特願2004-68081 (P2004-68081) (22) 出願日 平成16年3月10日(2004.3.10)	(71) 出願人 803000034 学校法人日本医科大学 東京都文京区千駄木1丁目1番5号 (74) 代理人 100091096 弁理士 平木 祐輔 (74) 代理人 100096183 弁理士 石井 貞次 (74) 代理人 100118773 弁理士 藤田 節 (74) 代理人 100111741 弁理士 田中 夏夫 (72) 発明者 水口 義昭 東京都文京区千駄木1丁目1番5号 日本医科大学内	
最終頁に続く		
(54) 【発明の名称】 ヒトチミジル酸合成酵素に対するRNAiとして作用するRNA配列		
(57) 【要約】		
【課題】 ヒトにおける広範な種の癌に有効な抗癌剤となり得る、新規TS抑制剤を提供する。		
【解決手段】 ヒトのチミジル酸合成酵素を抑制するためのRNAi分子として作用するRNA配列を特定し、該配列を有するRNAおよびこれをコードするDNAを提供する。		
【効果】 上記RNAi分子を細胞内に発現させることにより、TSの発現は抑制された。したがって、本発明のRNAおよびこれをコードするDNAは、新規TS抑制抗癌剤である。		
【選択図】 なし		

公開特許公報、特許公報にはそれぞれ、以下の内容が記載されています。

### (1) 公報の種別：公開特許公報か特許公報

### (2) 出願番号、公開番号、(特許番号)

### (3) 出願日、公開日、(登録日)

### (4) 出願人、(特許権者)

### (5) 発明者

### (6) 発明の名称

発明の内容が的確に表現されていることが好ましいですが、発明の権利範囲を何ら制限するものではありません。

### (7) 要約

発明がどんな課題を解決するためのものなのかを短く的確にまとめたものです。

### (8) 特許請求の範囲

「特許請求の範囲」に記載されている「請求項」が、出願人が権利として保護したいと考えている発明(権利化された発明)です。請求項はクレーム  とも呼ばれ、複数設けることができます。

### (9) 発明の詳細な説明

「請求項」はかなり特殊な表現で記載されることが多いため、より詳しく書かれている「発明の詳細な説明」が参考になります。また、「発明の詳細な説明」に詳しく記載している事項は、審査対応の際、特許請求の範囲を変更しなければならない場合に、請求項へ記載することができますので、可能な限り詳細に記載したほうが良いとされています。

### (10) 実施例

実際に行った「実験例」など、発明者と同じレベルの研究者であれば容易に追試できる程度に詳細に記載します。

### (11) 図面の簡単な説明

### (12) 図面

実験の結果のグラフや写真、物の形態を示します。

